

重点取組分野	令和元年度		令和2年度		令和3年度		
	重点取組	具体的取組	重点取組	具体的取組	重点取組	具体的取組	
生きてはたらき知	①重点研の研究主題を「知りたい、やりたい、つたえたい、深めたい!」〜と学びたい子が育つ単元づくり〜と設定し、単元を通して子ども達の主体性と学びの楽しさを追究する。②国語科を中心に、自己の考えを明らかに伝え合うことを通して思考の深化を図る。	表現方法を比較して気づいたことや、情景描写を読み取って感じたことなどを伝え合ってく、新しい視点に気づけたり、今までと違ってできたことと明らかになったこと、学習することの楽しさを伝えることができた。③縦割り活動を通して、学びごとの意味や楽しさを実感させることのできた。	①外部で学ぶというわけではないが、機会に恵まれず進んでなかったが、この時期だから他校の実践から学び、本校の取組とていこうの学習方法を追究していく。学んだことは、校内で研究会で共有し、教員の指導力向上を図ること、児童の学力を向上させていく。	②児童の実態を把握し、道徳教育の方向性と教材について共有し、カリキュラムを作成した。また、カリキュラム改善の視点を踏まえ、各教科等との関連を意識した実践を行うよう取組んだ。③④本年度、道徳教育の授業は非公開、縦割り活動は限定的であった。その上で、児童の学力を向上させた。	①児童の実態を資質・能力で捉え、育成を目指す授業づくりに取組む。②教科の特性や単元によってICT機器をより活用し、児童が自らの考えを広げ深めたり学び合ったりすることができるようにする。③校内研究会や学年間で共同し、教員の指導力向上を図ること、児童の学力(資質・能力)を向上させること。		
豊かな心	①特別の教科道徳の実施に伴い、本校の実態に即した道徳教育の充実とカリキュラムの作成に取り組む。②道徳の授業を公開し、保護者の理解と協力を得ていくとともに、教科等や日常生活の関わりをもたせた実践を積み重ねていく。③本校の特色である縦割り活動を通して、異学年との交流を進める。	①本校の実態に即したカリキュラムをもとに道徳教育を行うことで、児童の実態に即した道徳教育を進め、児童の心情や態度を育成することができた。②道徳の授業を公開し保護者にも学習の考え方を伝えることができた。③縦割り活動では、全校友達等を通して異学年交流を深められた。	①児童の実態を把握し、道徳教育の方向性と教材について共有し、カリキュラムを作成した。また、カリキュラム改善の視点を踏まえ、各教科等との関連を意識した実践を行うよう取組んだ。③④本年度、道徳教育の授業は非公開、縦割り活動は限定的であった。その上で、児童の学力を向上させた。	②児童の実態を把握し、道徳教育の方向性と教材について共有し、カリキュラムを作成した。また、カリキュラム改善の視点を踏まえ、各教科等との関連を意識した実践を行うよう取組んだ。③④本年度、道徳教育の授業は非公開、縦割り活動は限定的であった。その上で、児童の学力を向上させた。	①本校の実態に即した道徳教育の充実とカリキュラムの改善の意識をもち、取り組む。②教科等や日常生活と関連をもたせた道徳の実践を積み重ねていく。③道徳教育の授業を公開し、保護者の理解と協力を得ていく。④本校の特色である縦割り活動を通して異学年との交流を進める。		
健やかな体	①子どもたちが楽しみながら体力を高めているように、集会などの機会を活用し、年間を通して長細く取り組む。②体力テストの結果を分析し、本校の優れた点や課題を把握して、体力向上とともに生活習慣の改善に役立てる。③金曜日の「ロング中休み」を有効に活用し、遊びを通して体力アップする習慣を広げていく。	①長綱の取り組みでは、集会だけでなくそれぞれのクラスが休み時間に楽しんだ。②体力テストの結果も明確なデータを提示することで、生活習慣の改善に繋がった。③運動委員会主催のリズムなわとびに取り組む。楽しみなながら体力アップする習慣が広がった。	①子どもたちが楽しみながら体力を高めているように、集会などの機会を活用し、年間を通して短く、長細く取り組む。②学校保健委員会の取組を通して、児童が自らの健康に対する関心を高めたいけるようにする。③栄養士、養護教諭、給食委員会の活動を通して、児童の食育活動に取り組む。	②③④について、コロナの影響で、集会等、大人数が集まることはできなかった。運動委員会も、運動不足が心配され、運動と興味をもってもらう等をねらいつつ活動量を確保し、全校放送を通して、給食委員会の活動に取組む。	①子どもたちが楽しみながら体力を高めているように、運動委員会の活動を活用し、運動の機会を増やす。②学校保健委員会の取組を通して、児童が自らの健康に対する関心を高めたいけるようにする。③栄養士、養護教諭、給食委員会の活動を通して、児童の食育活動に取り組む。		
授業力向上	①個々の取組と交流による深化をはかり、互いの考えを伝え合い、授業を通して学びつくりを進める。②地域との関わり方を通じて、学ぶことの素晴らしさや必要性をさらに気付かせる。③感得し、学び合いの重要性を重視した個別に応じた指導の充実。児童間も教師間も、日常的な情報交換等を活用する。	①単元の取組と交流による深化をはかり、互いの考えを伝え合い、授業を通して学びつくりを進める。②地域との関わり方を通じて、学ぶことの素晴らしさや必要性をさらに気付かせる。③感得し、学び合いの重要性を重視した個別に応じた指導の充実。児童間も教師間も、日常的な情報交換等を活用する。	①主体的・対話的で深い学びの視点で行う授業を通して学びつくりを進める。②地域との関わり方を通じて、学ぶことの素晴らしさや必要性をさらに気付かせる。③教員の学び合いを重視し、児童間も教師間も、日常的な情報交換を活性化し、学習並びに児童同士のつながりを深めたい。	①「対話的に学び、地域との関わり方を通して学びつくりを進める。」②地域との関わり方を通じて、学ぶことの素晴らしさや必要性をさらに気付かせる。③教員の学び合いを重視し、児童間も教師間も、日常的な情報交換を活性化し、学習並びに児童同士のつながりを深めたい。	①一部教科分組制などに取り組み授業改善の日常化を図る。②地域との関わり方を通して、地域の人と連携したり学んだりと、授業の質的向上と教員の授業力向上を図る。③個々の学びや友達との学び合いを大切にするために、GIGAスクール構想のもとタブレットを有効活用する授業展開の取組を進める。		
特別支援教育	①個に応じた支援が必要な児童について情報共有を図り、全職員が参画して効果的な指導ができるよう配慮する。②個別支援学級と一般級との交流を定期的にも、特別支援教育校内委員会を定期的に開催して、情報共有や効果的な指導の手立てなどについて意見交換し、実践を重ねていく。	①交流委員会のほか必要に応じて情報共有したり、打ち合わせを取り付けたこと、全職員が関わりながら個に応じた支援をすることができた。②よくある交流が困るようになり、具体的な方法や配慮をめぐり、職員同士で研修をしていくこと、日々の支援に生かすことができた。	①個に応じた支援が必要な児童については、職員同士で情報共有し、効果的な指導の手立てなどについて意見交換し、実践を重ねていく。②個別支援学級と一般級との交流を通して、児童同士で情報共有し、効果的な指導の手立てなどについて意見交換し、実践を重ねていく。	①特別支援教室(本校では「取り出し」)を実施した。その授業後、明るく表現し、自分の言葉で意見を述べたり、子どもたちが多く見られた。②職員研修で、交流児童がいる場合のクラス経営について、アイデアを出し合った。交流児童がいる学校級の職員も、児童同士の関わり方を学ぶよい機会になった。	①個に応じた支援が必要な児童について、職員間で情報の共有を図ると共に、特別支援教室で児童の関わりを促すために、一人ひとりに応じた学習支援を実施する。②個別支援学級と一般級との交流については、個別支援児童の特性に合わせて実施する。③職員研修を通して、様々な特性に対する理解や、それに合わせた指導の仕方		
教育課程改善	①こどもの国や地区センター、地域ケアプラザなどの施設、地域ボランティアや教育サポーターなど、地域の材を活用した教育課程の充実を図る。②授業公開時のアンケートによる評価や、学力向上アクションプラン、重点取組の取組を基に、学年やブロックを中心にカリキュラムマネジメントに取り組む。	①地域の施設や教育ボランティアを活用した授業活動に、様々な教科領域で取り組んだこと、児童の活動の幅が広がり、より充実した学習となった。②学年をチームとした教材研究やカリキュラムの検討を行うことで、授業の質の向上につながった。	①同内容の授業を繰り返すことにより、改善点が見つかりやすく、授業の質を上げることでできた。また準備の時間が減り、働き方改革にもつながった。②例年、行っていたことでは、徒歩圏にあることなど、国で代用するなど地域の利点を生かすこと	①同内容の授業を繰り返すことにより、改善点が見つかりやすく、授業の質を上げることでできた。また準備の時間が減り、働き方改革にもつながった。②例年、行っていたことでは、徒歩圏にあることなど、国で代用するなど地域の利点を生かすこと	①一部教科分組2年目として、授業の準備、教材研究の効率化を図り、授業の質を高める。②地域の材をより生かせるよう、感染症対策を行い、方法と内容を工夫してこれまでもは違わくわりを模索して、できることを実施する。		
児童指導	①複数の目で子どもたちを見ていくことで、一人ひとりのよきや可能性、課題を捉え、チームで指導にあたる。②教職員が問題を抱え込まず、組織的に指導していき、効果的な体制を整備する。③職員会議のなかで、児童理解に関わる内容を定期的に振り返り、共通理解をもとに指導を進めることができる。	①複数の目で子どもたちを見ていくことで、一人ひとりのよきや可能性、課題を捉え、チームで指導にあたる。②教職員が問題を抱え込まず、組織的に指導していき、効果的な体制を整備する。③職員会議のなかで、児童理解に関わる内容を定期的に振り返り、共通理解をもとに指導を進めることができる。	①複数の目で子どもたちを見ていくことで、一人ひとりのよきや可能性、課題を捉え、チームで指導にあたる。②教職員が問題を抱え込まず、組織的に指導していき、効果的な体制を整備する。③職員会議のなかで、児童理解に関わる内容を定期的に振り返り、共通理解をもとに指導を進めることができる。	①複数の目で子どもたちを見ていくことで、一人ひとりのよきや可能性、課題を捉え、チームで指導にあたる。②教職員が問題を抱え込まず、組織的に指導していき、効果的な体制を整備する。③職員会議のなかで、児童理解に関わる内容を定期的に振り返り、共通理解をもとに指導を進めることができる。	①年間を通してチームとして複数の眼を見ていくことで、一人ひとりのよきや可能性、課題を捉え、組織的に指導にあたる。②教職員が問題を抱え込まず、チームで指導していき、効果的な体制を整備する。③児童理解に関わる内容を定期的に振り返り、共通理解を図る。		
いじめへの対応	①いじめ防止委員会を定期的に開催し、各学年の実態や日常の様子、個別に指導が必要なケースなどについて情報共有し、効果的な手立てについて検討し実施する。②毎月の職員会議で児童の実態についての情報交換を行い、いじめの防止・早期発見・適切な対応について共有し、組織的に取り組む。	①いじめ防止委員会を定期的に開催し、各学年の実態や日常の様子、個別に指導が必要なケースなどについて情報共有し、効果的な手立てについて検討し実施する。②毎月の職員会議で児童の実態についての情報交換を行い、いじめの防止・早期発見・適切な対応について共有し、組織的に取り組む。	①いじめ防止委員会を定期的に開催し、各学年の実態や日常の様子、個別に指導が必要なケースなどについて情報共有し、効果的な手立てについて検討し実施する。②毎月の職員会議で児童の実態についての情報交換を行い、いじめの防止・早期発見・適切な対応について共有し、組織的に取り組む。	①いじめ防止委員会を定期的に開催し、各学年の実態や日常の様子、個別に指導が必要なケースなどについて情報共有し、効果的な手立てについて検討し実施する。②毎月の職員会議で児童の実態についての情報交換を行い、いじめの防止・早期発見・適切な対応について共有し、組織的に取り組む。	①月一回の生活アンケートなど教育相談を実施し、いじめの未然防止・早期発見につなげる。また適切な対応について共有し、組織的に指導にあたる。②いじめ防止対策委員会の定期的な開催の他に、必要に応じて委員会を開催し、各学年の実態や日常の様子、個別に指導が必要なケース		
人材育成・組織運営(働き方改革)	①授業研究や各種研修について、短い時間で最大の効果と上げられるような内容や方法を吟味する。②職務遂行に伴う、必要感と実効性の高いOJTを企画し、実践していく。③キャリアステージに応じて、役割と責任を果たしていけるような仕組みやマネジメントを推進する。	①授業づくり部会において学習指導の一層の充実を意図し、授業実践や参観の視点を明確にするには、②次期管理職候補のOJTを計画したが、具体的に進める時間の確保が十分できなかった。③自己観察表に掲げる目標の達成状況を具体的に振り返り、次回に向けての取組を計画していく。④キャリアステージに応じて、役割と責任を果たしていけるような仕組みやマネジメントを推進する。	①コロナ禍においてできることや工夫することを中心に、本年度は一人ひとりが学級、学年、学校づくりを細かく丁寧に進める組織であることを意識させていく。②それぞれのライフステージに応じて、役割と責任を果たしていけるような組織マネジメントの推進を図る。特に次期管理職候補者には本校の状況	①コロナ禍においてできることや工夫することを中心に、本年度は一人ひとりが学級、学年、学校づくりを細かく丁寧に進める組織であることを意識させていく。②それぞれのライフステージに応じて、役割と責任を果たしていけるような組織マネジメントの推進を図る。特に次期管理職候補者には本校の状況	①今年も継続してあろろコロンにおける教育活動の意義や価値をとらえおなす中で、チーム学年経営を中心とした学年経営の充実を図り組織力向上を図る。②一人ひとりのキャリアステージに応じた目標設定や組織運営の中で役割を明確し、主幹会、教務会、学童研、メンター研での人材育成を図る。		
ブロック内評価後の気付き	奈良中学校へ進化した卒業生の姿から、落ち着いた授業に参加している子どもが多いとの評価をいただいている。他校出向し、細かく事に取り付き、自分から行動できている。たわわり活動の充実により育まれたリーダーシップ能力が意欲のある活動につながっている。小中交流の授業参観では、中学校入學までに身に付けたい能力についてブロックで共有した。中学校のスピード感で学習しているような準備が足りていないため、改善の必要がある。	奈良中学校へ進化した卒業生の姿から、落ち着いた授業に参加している子どもが多いとの評価をいただいている。他校出向し、細かく事に取り付き、自分から行動できている。たわわり活動の充実により育まれたリーダーシップ能力が意欲のある活動につながっている。小中交流の授業参観では、中学校入學までに身に付けたい能力についてブロックで共有した。中学校のスピード感で学習しているような準備が足りていないため、改善の必要がある。	児童が中学校と交流する機会を今年度は設けることができなかったが、中学校から書面や映像で資料提供があり、高学年の児童が中学校へのイメージを醸成させ、安心して進学できるようになる工夫が大切であると実感できた。例年通りの活動ができなくて、何をすれば児童の資質、能力を高めているのか、常に考え、学校として実践していく必要がある。	児童が中学校と交流する機会を今年度は設けることができなかったが、中学校から書面や映像で資料提供があり、高学年の児童が中学校へのイメージを醸成させ、安心して進学できるようになる工夫が大切であると実感できた。例年通りの活動ができなくて、何をすれば児童の資質、能力を高めているのか、常に考え、学校として実践していく必要がある。	児童が中学校と交流する機会を今年度は設けることができなかったが、中学校から書面や映像で資料提供があり、高学年の児童が中学校へのイメージを醸成させ、安心して進学できるようになる工夫が大切であると実感できた。例年通りの活動ができなくて、何をすれば児童の資質、能力を高めているのか、常に考え、学校として実践していく必要がある。		
学校関係者評価	教育懇話会を実施し、地域の自治会長、地域コーディネーター、民生委員、児童委員、PTA代表、中学校校長の意見を伺った。たわわり活動の充実が他の学校にはない大きな魅力となっている。他学年への配慮、上級生としての自覚が育まれ、意欲のある活動とされている。また地域のイベント等の子どもから、コミュニケーションの能力の高さを感じ、日頃の教職員の指導を評価された。毎年行われている全国学力学習調査では、6年生が全国の平均を超えていることを知り、学習面で安定した結果に評価をいただくと共に教科担任等、今後のより良い指導を期待された。	教育懇話会を実施し、地域の自治会長、地域コーディネーター、民生委員、児童委員、PTA代表、中学校校長の意見を伺った。たわわり活動の充実が他の学校にはない大きな魅力となっている。他学年への配慮、上級生としての自覚が育まれ、意欲のある活動とされている。また地域のイベント等の子どもから、コミュニケーションの能力の高さを感じ、日頃の教職員の指導を評価された。毎年行われている全国学力学習調査では、6年生が全国の平均を超えていることを知り、学習面で安定した結果に評価をいただくと共に教科担任等、今後のより良い指導を期待された。	コロナ収束後、教育懇話会の開催を予定している。	コロナ収束後、教育懇話会の開催を予定している。	教育懇話会を実施し、地域の自治会長、地域コーディネーター、民生委員、児童委員、PTA代表、中学校校長の意見を伺った。たわわり活動の充実が他の学校にはない大きな魅力となっている。他学年への配慮、上級生としての自覚が育まれ、意欲のある活動とされている。また地域のイベント等の子どもから、コミュニケーションの能力の高さを感じ、日頃の教職員の指導を評価された。毎年行われている全国学力学習調査では、6年生が全国の平均を超えていることを知り、学習面で安定した結果に評価をいただくと共に教科担任等、今後のより良い指導を期待された。		
中期取組目標振り返り	「生きて働く知識」については学習力学習状況を分析して改善を図ってきており一定の成果があった。今後は、一部教科分組制を導入し「授業力向上」(資質・能力)を高める。児童の学習意欲を高める高まりを目指して取り組む。授業指導において、児童間の情報の共有化を図る。児童間のコミュニケーションを密にする。児童が安心した学校生活を築き、「豊かな心」の育成に向け道徳の授業を積極的に取り組むこと。たわわり活動や子どもたちの活動活動を効果的に行い、また、特別に支援が必要な子どもに対する全職員の共通理解と研修を通して子ども一人ひとりが生き生きと活躍できる学校を	新学習指導要領全面実施の年度ではあったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「先進の実践事例研究」の取組が進まず、また精選・再編した年間学校行事の実施も、中止・縮小などにより当初予定していたものとは異なるものが余剰となった。しかし、行事スタイルを変更する中で、工夫・創意を発揮する学びの場をさまざまな場面で見出すことができたことは収穫であったと考える。「生きて働くこと」をさまざまな教育活動の中で展開した中で児童の成長を促すことができたと考える。また、今年度導入した一部教科分組制での、教材研究の効率化、授業力向上、児童理解・支援の深化、教職					